

第7章 今後の課題

今回、玉東町における史跡西南戦争遺跡の保存活用計画を策定するに当たり、管理・運営や公有地化の問題・課題が明らかになった。これらの解決のため、さらには保存・活用のための整備計画策定及び事業化に向けて、以下、課題点をまとめる。

(1) 史跡の保存・活用のための体制について

① 史跡の管理・運営の体制の確立と費用の確保

史跡の適切な保存・活用のためには、持続可能な管理・運営の体制と新たな財政措置が必要である。そのためには、地域の理解と協力、様々な主体のボランティアの協力が必要不可欠であり、関係諸機関と協議しながら、行政機関の責任の所在の整理及び連携、地域との連携、ボランティアの育成等に尽力する必要がある（図90参照）。また、保存・活用を支える管理・運営費用の確保については、今後、様々な補助金を活用しながら、寄付金や募金制度の導入も検討する必要がある。

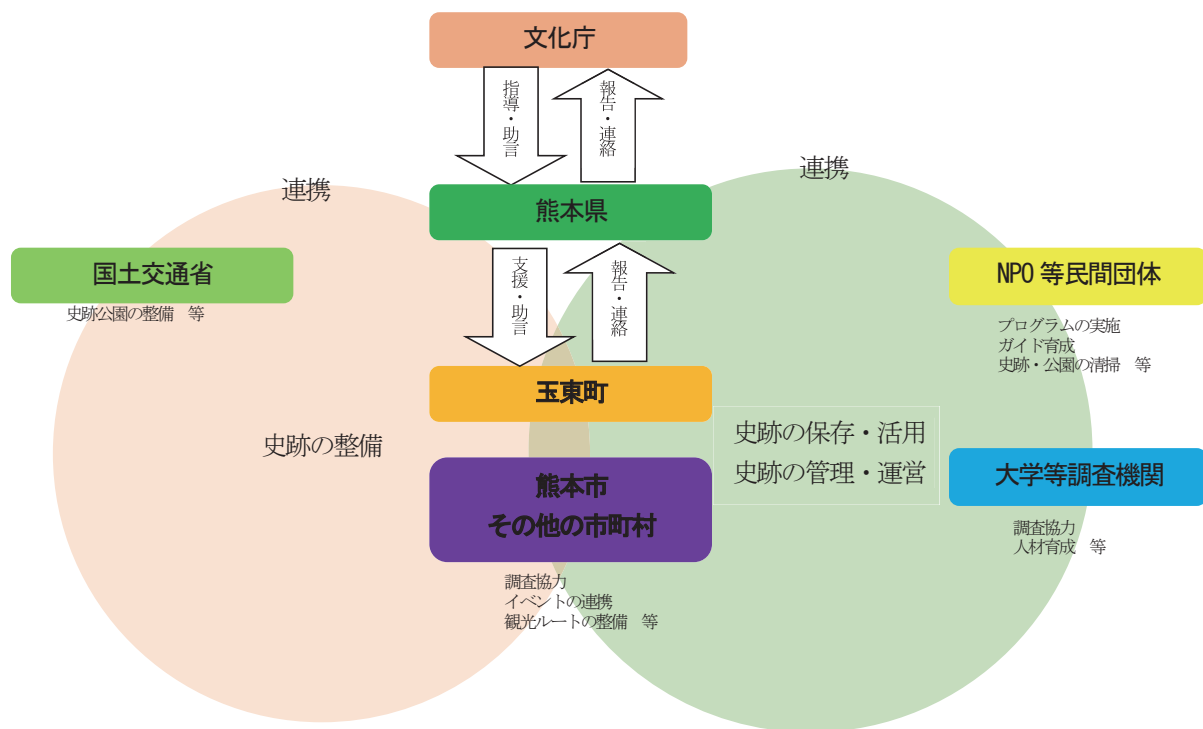


図92 史跡の保存・活用における各機関の連携イメージ

② 史跡の公有地化

史跡の適正な保存のためには、史跡指定地の公有地化が望ましい。しかしながら、長期的視点に基づいた今後の管理・運営体制や活用の方策の見込みが立たないという課題があるため、今後10年間ににおける公有地化部分は、史跡地全体の内約4割程度に留め（71頁図68参照）、その他の民有地については所有者に協力を仰ぎながら管理を行う予定である。これらについては、管理・運営体制が整い次第、所有者の事情も考慮しながら順次公有地化を図りたい。また、今後出来るだけ早い段階で、全体計画等、明確な見通しを立てる必要がある。

(2) 史跡整備について

① 史跡ネットワークを回遊する為の交通網の整備

現在、各遺跡を回遊する為の公共交通手段はなく、徒歩や自家用車を利用するしかない状況である。また、歩道の整備も充分ではなく、安全快適な回遊が出来るとは言い難い状況である。今後、遺跡へアクセスする交通手段や交通網について充実を図る必要がある。

② 公園区域の設定

現在、A及びB地区内（4頁参照）における公園地は、半高山・吉次峠古戦場内、横平山戦跡内、高月児童公園がある。その他、今後の整備に向けてどこまで公園化を図るかについては、都市計画事業等とも併せて早急に決定していく必要がある。

(3) 西南戦争遺跡のネットワークと今後の調査について

① 西南戦争遺跡ネットワークの形成

史跡西南戦争遺跡は玉東町域のみならず、隣接する熊本市北区植木町にも広がる。当地には拠点施設となる田原坂西南戦争資料館があり、当該施設における展示内容等と現地表示の調整等が必要となってくるだろう。また、サイン等の統一も図る事が望ましく、今後、密接な協議・調整を行っていく必要がある。

この他、県下及び九州各地に広がる西南戦争遺跡のネットワークを広げ、相互の保存・活用を、より良い形で図っていきたい。

② 調査研究の継続・追加指定

史跡の適切な保存・活用のためには、現状の調査研究成果を展示に反映させることはもちろん、新しい見解に基づいた展示、情報を公開更新し、地域住民をはじめ多くの理解を得ることが必要不可欠である。

今後は、史跡地をはじめとした西南戦争遺跡の調査研究を継続して行い、必要に応じて追加指定についても検討する。